水道事業・下水道事業のあゆみ

平成２６年５月

福岡県太宰府市

（行政人口の推移等）

太宰府市の市域は、昭和 30 年に太宰府町と水城村が合併して形成され、当時の行政人口は 13,264 人、面積は 2,945ha でした。

その後、大規模開発による住宅化の進行、大学の立地、交通網の整備等により福岡市を中心として周辺地域の人口が急増し、本市は、昭和 57 年に 5 万人を突破して全国で 651 番目の市制を施行しています。

平成 25 年度末の行政人口は 71,123 人となっており、本市の総合計画における平成 32 年の将来目標人口 72,000 人に大きく迫ってきていますが、国立社会保障・人口問題研究所が平成 25 年 3 月に公表した推計人口では、2020 年に 73,362 人、2040 年で 71,249 人となっており全国的に減少傾向を示す中、太宰府市は増加が見込まれている状況です。

（水道事業）

太宰府市の水道事業は、昭和 38 年に計画給水人口 12,000 人で創設し、昭和 42 年に給水を開始しています。

当時は水道への加入がなかなか進まず、戸別訪問を行うなど普及促進が大きな課題となっていました。

しかし、普及が波に乗りつつも人口急増や生活様式の向上などによって逆に給水が追いつかなくなり、給水開始から僅か 6 年後の昭和 48 年に給水規制が行われました。

その後もほぼ 2 年ごとに規制の範囲を拡大し、時には他団体からの応援を得ながら何とか凌いできましたが、昭和 53 年と平成 6 年の福岡都市圏を襲った大渇水時には、長期間に及ぶ夜間断水に踏み切るといった苦い経験をしています。

このようなことから、市は“水の確保”を最重要課題として位置づけ、様々な水源開発に取り組んできました。この地道で長い取り組みによって、山神水道企業団及び福岡地区水道企業団からの受水や北谷ダムの完成等、それまでの苦労が実を結び、平成 14 年 7 月、実に 30 年間継続してきた給水規制を全面解除できたことは、歴史的な出来事と言えます。

現在では、筑後川水系の大山ダムの完成によって昨年 4 月に大幅な受水

の増量があり、また、平成30年には那珂川町に建設中の五ヶ山ダムの完成が予定されていることから、将来目標人口の水需要には十分耐え得る給水が可能となりました。

今後は、水道の普及促進を図りながら、より安定した事業経営を進めるとともに、安全で安心なおいしい水の安定供給に努めてまいります。

（下水道事業）

(1)汚水整備

太宰府市の下水道事業は、昭和41年に福岡県住宅供給公社が行った開発団地（現都府楼団地）のコミュニティプラントによる下水処理を市が受け継ぐ形で、単独公共下水道をスタートさせています。

その後、急激に都市化が進んでいく中、昭和46年度に福岡県が福岡市と筑紫地区4市1町を対象とした御笠川那珂川流域下水道事業を計画、本市もこの事業に参画し、都市計画区域のほぼ全域を区域とする本格的な公共下水道事業に取り組むことになりました。

この事業の当初計画は、単独公共下水道の区域を含み計画面積1,392ha、計画人口63,000人でした。その後、北谷地区、九州国立博物館、松川運動公園等を編入する規模の拡大を行って、現在に至っています。

また、内山地区については、平成21年3月に宝満川上流流域下水道事業に参画し、特定環境保全公共下水道として事業を開始しました。

このような経過を辿り、本市の下水道は御笠川と宝満川の流域関連公共下水道として、現在、市内のほぼ全域を対象としています。

下水道の目的である公衆衛生の向上と公共用水域の水質の保全は、市民及び事業者がこれを利用することによって果たされるものですが、本市の処理人口普及率は平成24年度決算で99.0%と全国平均の76.3%に比べて高い数値を示している状況です。また、水洗化率は96.3%となっており、今後においても水洗化の促進に努めていくこととしています。

(2)雨水整備

下水道事業の認可を受けて以降、昭和55年から主として雨水幹線を整備

してきました。

都市化とともに農地や山林等の減少が進むにつれ、従来からの保水調整能力も徐々に低下していることもありますが、近年の集中的かつ局地的な豪雨は、道路冠水や住宅への浸水被害をはじめとして各地で甚大な被害をもたらしています。

平成15年7月の集中豪雨では、気象庁の太宰府観測所において1時間に99㎜を観測するなど記録的なものとなっています。

本市においては、こういった状況を踏まえて雨水計画の見直しを行い、同年12月に5年確率から10年確率に引き上げて整備を進めることとしています。

現在、奥園、国分、五条及び芝原地区について集中的に取り組んでおり、計画では平成28年度に整備工事を完了する予定としています。

高雄地区の浸水対策については、高尾川及び鷺田川の河川改修に併せて遅滞なく取り組む必要がありますが、現在、福岡県において鷺田川の改修が順次進められているところです。

これらにより、公共下水道としての雨水整備は一定の完了を見ますが、今後の降雨状況等に応じては適切な対策を講じていく必要があり、また、雨水の放流先である河川の改修及び整備について国や県に対する要望等も積極的に行っていく必要があります。

（事業の健全経営）

現時点において、水道事業及び下水道事業とも資金不足の発生はなく、かつ、将来の中・長期的な収支見通しにおいても黒字が見込まれ、健全に運営されている状況です。

また、水道料金については、平成22年10月に家事用を平均4.7％引き下げ、下水道使用料については、今年の5月使用分からを平均で7.0％引き下げています。これらにより、それぞれの料金水準は、水道で県内事業体の中間に、下水道では安い方に位置する状況となっています。

今後においてもこれまでの経営努力を継続しながら、更なる料金の引き下げが行えるよう、健全経営に努めてまいります。

平成24年度決算書(業務の概要)抜粋

(1) 水道事業

事項		単位	平成24年度	平成23年度	比較 増減	比較 比率	備考
行政区域内人口 (A)		人	70,591	70,456	135	100.2%	
年度末給水人口 (B)		人	57,299	56,890	409	100.7%	
年度末給水戸数		戸	23,405	22,919	486	102.1%	
年度末給水栓数		栓	19,783	19,700	83	100.4%	
計画給水人口		人	65,200	65,200	0	100.0%	
普及率 (B/A)		%	81.2	80.7	0.5		
給水量	年間 (C)	m^3	5,258,881	5,169,381	89,500	101.7%	
	1ヶ月平均	m^3	438,240	430,782	7,458	101.7%	
	1日平均 (D)	m^3	14,408	14,124	284	102.0%	
	1人1日平均 (D/B)	リットル	251.5	248.3	3.2	101.3%	
有収水量	年間 (E)	m^3	4,922,096	4,888,185	33,911	100.7%	
	1ヶ月平均	m^3	410,175	407,349	2,826	100.7%	
	1日平均 (F)	m^3	13,485	13,356	129	101.0%	
	1人1日平均 (F/B)	リットル	235.3	234.8	0.5	100.2%	
一日最大給水量		m^3	16,437	16,406	31	100.2%	記録:12月31日
有収率 (E/C)		%	93.6	94.6	△ 1.0		

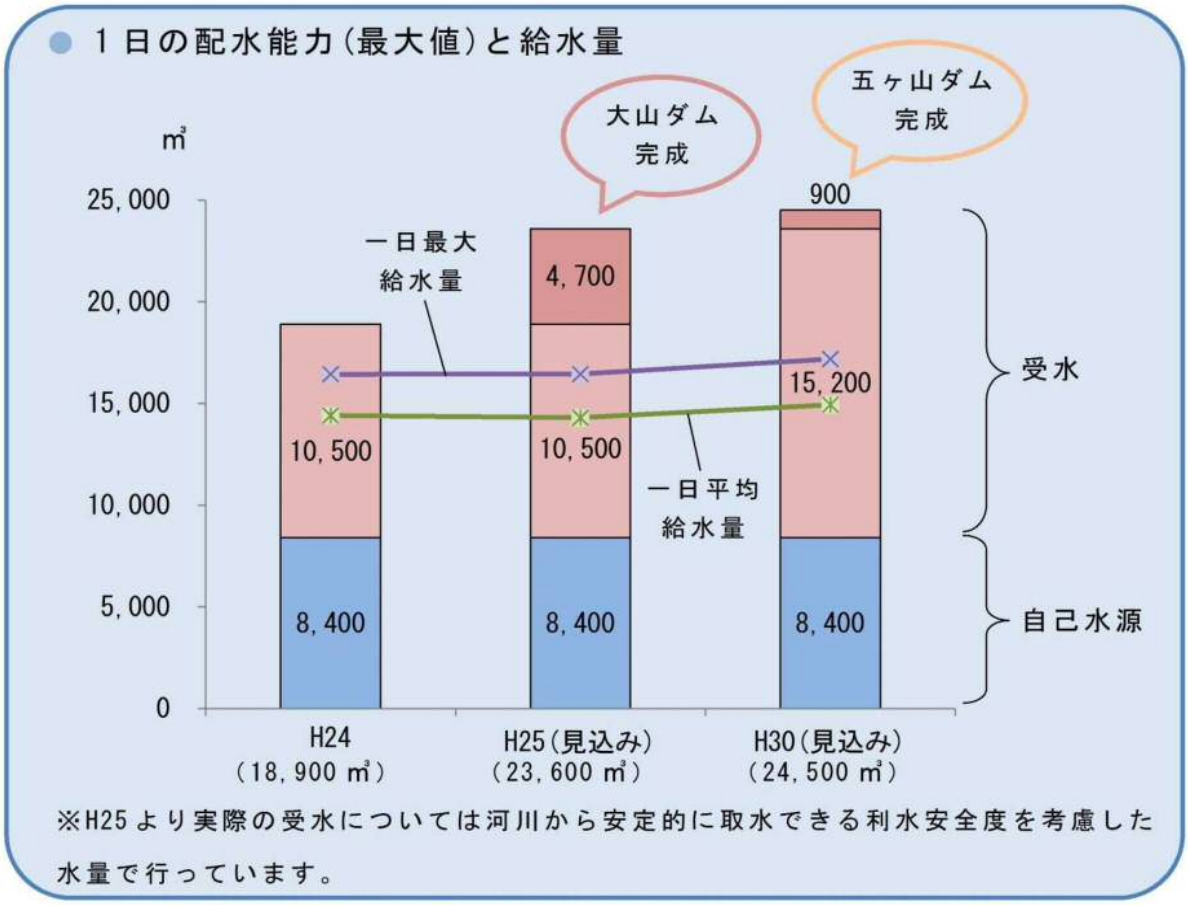
(2) 下水道事業

事項		単位	平成24年度	平成23年度	比較 増減	比較 比率	備考
行政区域内人口 (A)		人	70,591	70,456	135	100.2%	
処理区域内人口 (B)		人	69,898	69,703	195	100.3%	
水洗化人口 (C)		人	67,961	67,761	200	100.3%	
普及率 (B/A)		%	99.0	98.9	0.1		
水洗化率 (C/B)		%	97.2	97.2	0.0		
水洗化人口普及率 (C/A)		%	96.3	96.2	0.1		
全体計画面積 (D)		ha	1,614.0	1,614.0	0.0	100.0%	
整備面積 (E)		ha	1,362.7	1,356.8	5.9	100.4%	
整備率 (E/D)		%	84.4	84.1	0.3		
有収水量		m^3	6,170,907	6,140,527	30,380	100.5%	
内訳	一般汚水	m^3	6,136,969	6,107,290	29,679	100.5%	
	温泉汚水	m^3	33,938	33,237	701	102.1%	

【供用開始・施設別給水能力】

（単位：㎥/日）

供用開始年月	表流水				地下水						受水			合計
	松川ダム	北谷ダム	大佐野ダム	計	大佐野	落合	新落合	都府楼	水城	小計	山神	福水	計	
昭41.10	2,400			2,400						0			0	2,400
昭49.6			2,400	2,400						0			0	2,400
昭55.4				0						0	3,500		3,500	3,500
昭48.11				0		1,000				1,000			0	1,000
昭52.4				0						0		3,100	3,100	3,100
昭53.2				0		−1,000	1,500		1,500	2,000			0	2,000
昭53.6	600			600				1,000		1,000			0	1,600
昭56.4				0	1,000			−1,000		0			0	0
昭61.11				0						0		100	100	100
平8.4		1,000		1,000	700					700		900	900	2,600
平13.3				0	−900		−750		−1,050	−2,700			0	−2,700
平17.6				0						0		2,900	2,900	2,900
平25.4				0						0		4,700	4,700	4,700
平30.4				0						0		900	900	900
合計	3,000	1,000	2,400	6,400	800	0	750	0	450	2,000	3,500	12,600	16,100	24,500



太宰府市水道事業の沿革

事業認可	事業の創設及び拡張等		給水能力（㎥／日）増減	給水能力（㎥／日）累計	供用開始	給水人口 計画	給水人口 供用開始	行政人口 年度末
昭38.12	水道事業創設	松川ダム	2,400	2,400	昭42.4	12,000	6,070	22,055
昭45.3	第１次拡張	大佐野ダム	2,400	4,800	昭49.6	20,000	19,019	34,543
昭47.12	第１次（変更）	山神ダム（山神）	3,500	8,300	昭55.5	27,000	32,105	48,971
昭48.8	第２次拡張	地下水（落合）	1,000	9,300	昭48.11			
昭49.11	第３次拡張	江川ダム（福水）	3,100	12,400	昭58.11	35,800	36,476	54,209
		寺内ダム（福水）						
		合所ダム（福水）						
昭52.6	第４次拡張	地下水（落合）	△1,000	11,400	昭53.2			
		地下水（新落合）	1,500	12,900	※昭54			
		地下水（水城）	1,500	14,400	運転停止			
昭53.6	第４次（変更）	地下水（都府楼）	1,000	15,400	昭53.6	39,300	28,180	45,926
		松川ダム	600	16,000				
昭55.1	第４次（変更）	地下水（都府楼）	△1,000	15,000	昭56.4		33,696	50,549
		地下水（大佐野）	1,000	16,000				
昭60.7	第４次（変更）	計画人口の増加	—	—	昭60.7	42,400	37,724	56,802
昭61.11	受水量の増加	江川寺内合所ダム（福水）	100	16,100	昭61.11		38,244	57,638
平4.3	第５次拡張	北谷ダム	1,000	17,100	平11.3	47,300	47,438	64,843
		地下水（大佐野）	800	17,900	平8.4		45,630	63,868
		鳴淵ダム（福水）	900	18,800				
平13.3	第６次拡張	地下水（大佐野）	△1,000	17,800	平13.3	65,200	49,265	65,315
		地下水（水城）	△750	17,050				
		地下水(落合)	△1,050	16,000				
		海水淡水化（福水）	2,900	18,900	平17.6		52,057	66,959
		大山ダム（福水）	4,700	23,600	平25.4		58,112	71,123
		五ヶ山ダム（福水）	900	24,500	平30.4		62,179	71,600

※平成25・30年度末は、予測値である。

（平成24年度決算による給水実績等）

年間総給水量	5,258,881㎥	
給水人口	57,299人	（1人1日平均水量）
日平均給水量	14,408㎥	251.5ℓ
日最大給水量	16,437㎥	
1年間の日数	365日	

（安定給水量の確保等）

	日最大	安定水量	参　考
福水	12,600	11,260	協定による。
山神	3,500	2,800	同上
太宰府市	8,400	5,540	地下水・浄水率
合計	24,500	19,600	

※　将来における供給水量は、1人1日平均250ℓ×給水人口72,000人＝18,000㎥/日と想定されるが、これまでの水源開発により安定的に19,600㎥/日が確保され、全市民への給水が可能となっている。

年　月	給水規制、時間断水、普及促進等
昭48.4	開発行為に関し、自家給水を指導
昭48.6	５日間（渇水による時間断水）
昭48.7	５日間（集中豪雨による時間断水）
昭50.8	給水工事申し込み受付停止（約１年間）
昭51.7	１区画２戸まで給水
昭53.4	開発行為以外１筆５戸、口径φ25㎜まで給水
昭53.6	１６３日間（渇水による時間断水）
昭54.11	集合住宅２０戸、１日最大30㎥まで給水
平6.7	２９４日間（渇水による時間断水）
平8.9	節水都市宣言
平11.11	集合住宅３０戸まで給水
平14.7	給水規制全面解除（節水要綱制定）
平23.10	コンビニ収納導入
平24.3	地域水道ビジョン策定
平24.10	水道普及促進計画書策定
平25.6	第1回水道展開催（いきいき情報センター）

（水道普及率の実績及び目標）

平成22年度末　79.8%
平成23年度末　80.7%
平成24年度末　81.2%
平成25年度末　81.7%（見込み）
平成27年度末　85.0%（総合計画目標値）
※全国平均92.2%、類似団体98.1%、福岡県85.2%（平成23年度決算値）

年　月	水道料金の推移 平均改定率	水道料金の推移 20㎥/月	加入金 口径13㎜
昭40.8	条例施行	780	
昭48.10			40,000
昭49.9	92.0%↑	1,490	
昭53.4	80.0%↑	2,590	
昭55.5			70,000
昭59.4	46.0%↑	3,790	
昭60.5			100,000
平10.6	7.52%↑	3,790	150,000
平22.10	△0.5%↓ ※20㎥使用の場合4.7%減 ※加入負担金減額（3年間）	3,610	100,000
平25.10	加入負担金減額期間延長（平28.3.31まで）		

※金額は消費税抜きで表示

（水道料金の水準）
県内51事業体中、高い方から22番目とほぼ中間に位置しています。
※平成24年4月1日現在

年　月	職員体制等（課、係、人）	備　考
昭40.4	1係3人	水道係設置
昭41.10	1係5人（推定）	浄水職員2人配置
昭42.10	1係8人	
昭43.4	1室1係9人	水道室設置
昭43.8	1課1係9人	水道課
昭47.4	1課2係14人	
昭49.4	1課3係16人	
昭50.4	1課3係20人	
昭53.4	1課3係22人	
昭54.4	1課3係23人	
昭57.4	1課2係23人	
昭63.12	1部2課6係41人（部長、水道課27、下水道課13）	上下水道部設置
平3.4	1部3課6係44人（部長、次長、管理課8、水道課23、下水道課11）	組織改編
平8.4	1部3課5係41人（部長、企画管理課7、工務課22、業務課11）	組織改編
平11.4	1部3課4係32人（部長、企画管理課6、工務課18、業務課7）	浄水業務一部委託
平14.4	1部2課4係29人（部長、企業管理課12、企業施設課16）	組織改編、委託拡大
平15.4	1部2課3係26人（部長、上下水道課12、施設課13）	組織改編
平19.4	（上下水道部長の併任）	会計管理者の設置
平25.4	1部2課4係25人（部長、上下水道課11、施設課13）	施設課業務係設置
平26.4	同上（会計管理者の併任を解く）現在に至る	組織改編

太宰府市下水道事業の沿革

1　単独公共下水道

昭41.12　事業開始　福岡県住宅供給公社が太宰府市都府楼南に団地開発を行い”都府楼団地”が誕生、市が移管を受け単独公共下水道がスタートした。

昭43.5　供用開始　全体計画面積 22ha、計画人口 3,000人　【昭和57年度に流域関連公共下水道に編入、単独公共下水道を廃止】

2　流域関連公共下水道

(1)御笠川那珂川流域関連公共下水道　（構成団体：福岡市、筑紫野市、春日市、大野城市、太宰府市、那珂川町５市１町）

昭52.1　事業開始　全体計画面積 1,392ha、計画人口 63,000人

昭57.8　供用開始

平20.3　事業拡大　全体計画面積 1568.4ha、計画人口 66,300人、計画目標年度 平成37年度

(2)宝満川上流流域関連特定環境保全公共下水道（構成団体：筑紫野市、太宰府市、筑前町、基山町２市２町）

平21.3　事業開始　全体計画面積　45.6ha、計画人口　600人、計画目標年度 平成37年度

平21.10　供用開始

3　流域関連公共下水道の整備等の概要（供用開始年度以降）

年　月	汚水整備の概要								雨水整備の概要
	行政区域内人口	処理区域内人口	水洗化人口	水洗化率（%）	行政面積（ha）	計画面積（ha）	処理面積（ha）	整備率（%）	（主な工事の施工概要を掲載）
昭57年度	52,434	5,700	3,212	6.1	2,945	1,392	37	2.7	五条雨水 8.85m、古川雨水 135.54m、通古賀雨水 386.1m
昭58年度	54,209	8,600	4,600	8.5	2,945	1,392	135	9.7	（既設工事）
昭59年度	55,627	10,900	6,558	11.8	2,945	1,392	208	14.9	〔昭55年度　五条雨水 67.21m、古川雨水 80.0m
昭60年度	56,802	13,500	8,850	15.6	2,945	1,392	295	21.2	昭56年度　五条雨水 60.14m、古川雨水 68.5m、月山雨水 201.5m〕
昭61年度	57,638	17,300	12,900	22.4	2,945	1,392	341	24.5	
昭62年度	58,693	26,600	17,300	29.5	2,945	1,392	430	30.9	
昭63年度	59,677	25,400	20,760	34.8	2,970	1,392	503	36.1	
平元年度	60,077	31,700	24,000	39.9	2,970	1,392	570	40.9	市の上雨水 485m
平2年度	60,522	36,300	27,500	45.4	2,970	1,392	649	46.6	
平3年度	61,079	41,600	32,100	52.6	2,970	1,392	720	51.7	田中雨水 ブロック積工 105.2m、五条台調整池関連さく井工事
平4年度	61,230	45,200	36,300	59.3	2,971	1,453	768	52.9	貝出雨水 12.7m
平5年度	62,074	48,400	40,100	64.6	2,971	1,453	806	55.5	五条台調整池　容量2,700㎥ 下部工 600～1,350=100.85m 横断側溝 12.75m
平6年度	62,697	49,600	42,913	68.4	2,971	1,453	910	62.6	鉾ノ浦雨水 423.8m
平7年度	63,375	54,100	45,974	72.5	2,971	1,453	980	67.4	
平8年度	63,868	57,400	49,184	77.0	2,971	1,453	1,030	70.9	奥園雨水 181.8m、水路改修 63.9m
平9年度	64,516	59,600	54,735	84.8	2,971	1,453	1,090	75.0	秋山雨水 150.0m、開水路 36.4m、芝原雨水 203.0m
平10年度	64,782	60,300	56,456	87.1	2,961	1,453	1,110	76.4	秋山雨水 45.65m　開水路 165.2m、芝原雨水 44.2m
平11年度	64,843	61,100	57,832	89.2	2,961	1,453	1,136	78.2	古川雨水 17.6m
平12年度	65,085	61,500	59,194	90.9	2,961	1,453	1,213	83.5	五条雨水 10.85m
平13年度	65,315	61,600	60,420	92.5	2,961	1,453	1,236	85.0	梅ヶ丘雨水 456.3m、奥園雨水 151.4m、大原雨水 236.3m
平14年度	65,479	62,200	61,256	93.6	2,961	1,453	1,243	85.6	大原雨水 32.6m、奥園雨水 340.76m
平15年度	66,082	62,800	62,015	93.8	2,961	1,453	1,251	86.1	陣ノ尾雨水 196.8m、五条小橋雨水 14.0m
平16年度	66,506	63,300	62,536	94.0	2,961	1,453	1,259	86.6	陣ノ尾雨水 334.2m、φ200=56.5m
平17年度	66,959	63,700	63,078	94.2	2,961	1,453	1,263	86.9	
平18年度	67,597	64,053	63,641	94.1	2,958	1,453	1,265	87.1	陣ノ尾雨水 411.1m、芝原雨水 92.8m
平19年度	68,193	64,600	64,219	94.2	2,958	1,570	1,280	81.5	陣ノ尾雨水 74.0m、芝原雨水 224.02m、五条雨水 147.0m φ200=101.0m
平20年度	68,982	65,375	64,897	94.1	2,958	1,614	1,297	80.4	坂本雨水 136.1m
平21年度	69,658	68,469	66,440	95.4	2,958	1,614	1,343	83.2	貝出雨水 79.5m、五条雨水 14.6m、向佐野雨水 69.6m
平22年度	70,263	69,161	67,178	95.6	2,958	1,614	1,355	83.9	五条雨水 19.1m、貝出雨水 262.8m、向佐野雨水 42.5m
平23年度	70,456	69,703	67,761	96.2	2,958	1,614	1,357	84.1	
平24年度	70,591	69,898	67,961	96.3	2,958	1,614	1,363	84.4	奥園雨水 583.7m
平25年度	71,123	70,496	68,574	96.4	2,958	1,614	1,368	84.8	奥園雨水 426.0m
平26年度	71,702	71,021	69,190	96.5	2,958	1,614	1,377	85.3	奥園雨水 528.1m、陣ノ尾雨水 460.0m

※平成25・26年度の数値は、予測値である。

年　月	下水道使用料の推移	
	平均改定率	20㎥/月
昭43.4	条例制定（水道料金比例制）	400
昭53.4	100%↑	800
昭56.4	50%↑	1,200
昭58.4	8.3%↑	1,300
昭61.4	56.8%↑	1,900
平1.4	35.7%↑	2,500
平4.4	10.4%↑	2,600
平7.4	12.4%↑	2,800
平10.6	11.4%↑	3,100
平26.4	7.0%↓	2,810

※金額は消費税抜きで表示

（使用料の水準）
県内45団体中、高い方から31番目、安い方から13番目となり、安い方に位置しています。
※　平成24年4月1日現在でのデータ比較である。

年　月	職員体制等（課、係、人）	備　考
昭43.4		担当職員の配置なし
昭47.4	1人	水道課下水道担当
昭47.12	1人	水道課下水道係長
昭50.4	1人	都市計画課開発係長
昭52.4	1係1人	都市計画課下水道係長
昭53.4	1課2係6人（工務係、管理係）	下水道課設置
昭57.4	1課2係8人（工務係、管理係）	
昭63.12	1部2課6係41人（部長、水道課27、下水道課13）	上下水道部設置
平3.4	1部3課6係44人（部長、次長、管理課8、水道課23、下水道課11）	組織改編
平8.4	1部3課5係41人（部長、企画管理課7、工務課22、業務課11）	組織改編
平11.4	1部3課4係32人（部長、企画管理課6、工務課18、業務課7）	浄水業務一部委託
平14.4	1部2課4係29人（部長、企業管理課12、企業施設課16）	組織改編、委託拡大
平15.4	1部2課3係26人（部長、上下水道課12、施設課13）	組織改編
平19.4		会計管理者の設置（上下水道部長の併任）
平25.4	1部2課4係25人（部長、上下水道課11、施設課13）	施設課業務係設置
平26.4	同上	組織改編（会計管理者の併任を解く）
	現在に至る	